憲政史上初の事前公表

首相官邸で開かれた「元号に関する懇談会」＝１日午前９時31分

新元号「令和」決定

意義 捉え直す機会に

（解説）政府が1日、新元号を「令和（れいわ）」と決定した。利便性などから西暦を使うことが増えたとはいえ1300年以上の歴史を経て、日本の独自文化として定着もしている。新時代への思いを託す人もいるだろう。世界で唯一、元号制度が残る国としていま一度、意義を捉え直す機会としたい。

元号は古代中国が発祥で「皇帝が時をも支配する」との考えに基づく。日本の元号も長年天皇が定め、その権威を高めてきた面は否めない。だが戦後、日本は新憲法の下で主権在民の国家となった。天皇が支配する世の中ではないのに、なぜ皇位継承時に改める「一世一元」制で天皇と結び付いた元号が必要なのかという議論も必要だろう。

一方、元号への批判的な意見は以前ほど高まっていないのも事実だ。共同通信の世論調査で、元号と西暦のどちらを使いたいかを聞いたところ、両方を使いたい39・8％、西暦34・6％、元号24・3％で、元号への強い拒否反応はみられない。

日本人は「安政の大獄」や「明治維新」など大事件や歴史の転換点を元号で記憶し、単に時代を表示する手段ではない意味を見いだしてきた。味わいのある文化として評価する声もある。ただ同時に、時代の区切り方は個人の自由で多種多様だ。元号に縛られるものではない。今回の新元号公表は、そんな元号の是非を考える契機となる。

「元号に関する懇談会」メンバー

※五十音順、敬称略

- 上田良一　NHK会長
- 大久保好男　民放連会長
- 鎌田薫　日本私立大学団体連合会会長
- 榊原定征　前経団連会長
- 白石興二郎　日本新聞協会会長
- 寺田逸郎　前最高裁長官
- 林真理子　作家
- 宮崎緑　千葉商科大教授
- 山中伸弥　京都大教授

明治から平成までの元号を巡る主な経過（肩書は当時）

1868年10月23日	改元の詔書で慶応4年を「明治」の元年と改め、一世一元制を採用する〈写真①〉
89年2月11日	旧皇室典範が定められ、第12条で一世一元制を法定
1909年2月11日	皇位継承儀式に関する登極令を制定。元号の天皇勅定を明記
12年7月30日	明治天皇逝去。「大正」に改元〈②〉
26年12月25日	大正天皇逝去。「昭和」に改元〈③〉
46年11月8日	政府が「元号法案」を閣議決定するも、連合国軍総司令部（GHQ）が反対し、19日の閣議で撤回
47年5月3日	新憲法施行。旧皇室典範や登極令の廃止、新皇室典範の施行で元号の法の根拠が消滅
61年7月28日	元号制度などを検討する公式制度連絡調査会議の設置を閣議決定
79年2月2日	大平内閣が元号法案を閣議決定
6月6日	政令による元号制定や明治以降の一世一元制を踏襲する元号法が成立、12日に施行
10月23日	元号候補の考案方法や選定過程をまとめた元号選定手続きを閣議報告
89年1月7日	昭和天皇逝去。政府は有識者懇談会や衆参両院議長からの意見聴取などを経て、臨時閣議で新元号を「平成」と決定。小渕恵三官房長官が記者会見で発表〈④〉
8日	平成が施行

明治天皇（宮内庁所蔵）①

大正天皇②

昭和天皇③（宮内庁提供）

天皇陛下と皇后さま④

選定手続き「平成」踏襲

新元号選定の手続きは、1989年1月に「平成」へ改元した際の手順を踏襲した。政府内で候補名を極秘に絞り込む事前準備を経て、4月1日は有識者からの意見聴取など分刻みのスケジュールの中で新元号を決定した。

政府の事前準備では、「高い識見を有する」複数の専門家に新元号の候補名の考案を委嘱し、専門家は意味や出典を添えて提出。菅義偉官房長官は①国民の理想としてふさわしい良い意味を持つ②漢字2字③書きやすい④読みやすい⑤これまでに元号または贈り名（追号）として使われていない⑥俗用されていない―に留意し、数個の原案に絞り込むことに留意し、数個の原案を選定した。

その後、各界を代表する有識者を首相官邸に招いて元号に関する懇談会を開き、原案への意見を求めた。衆参両院の正副議長からの意見聴取も実施。これらの議論を踏まえ、全閣僚会議で協議し、最終的に臨時閣議で新元号が決まった。

新元号選定の手続き

事前準備

「高い識見を有する」専門家に候補名の考案を委嘱

❶国民の理想としてふさわしい良い意味を持つ
❷漢字2字
❸書きやすい
❹読みやすい
❺これまでに元号または贈り名（追号）として使われていない
❻俗用されていない
―に留意。数個の原案に絞り込む

4月1日当日

菅官房長官が有識者懇談会を開催。原案への意見を求める

衆院の大島、参院の伊達両議長らの意見聴取。全閣僚会議で協議

臨時閣議で新元号を決定

2018年12月23日、天皇陛下の85歳の誕生日を祝う一般参賀に臨まれる天皇陛下と皇太子さま＝宮殿・長和殿

最長は昭和、明治2位

2カ月の短命も

大化から平成まで247ある元号の中で最も長く続いたのは「昭和」だ。東大史料編纂（へんさん）所の山本博文教授によると、62年と13日で飛び抜けて長い。2位は「明治」の43年9カ月と7日。明治以降、天皇一代に一つの元号とする「一世一元」が制度化されたことが要因だ。鎌倉時代にはわずか2カ月余りで改められた「短命」元号もある。

かつて元号は新天皇の即位時に限らず、大地震や大火といった自然災害に加え、飢饉（ききん）や疫病が大流行した際などにも改められた。645年の大化から、江戸時代最後となる慶応までの約1200年の間に24の元号が存在しており、単純に平均すると、約5年に1回のペースで新元号が誕生したことになる。

最も短いのは鎌倉時代の「暦仁（りゃくにん）」で2カ月と14日。「略人」につながり「この世から人が略される（死んで消えてしまう）」との意味が連想されるため不人気だったとされる。次いで短かったのは、奈良時代に初の「4文字元号」として登場した「天平感宝（てんぴょうかんぽう）」。3カ月と15日で終わっている。

長寿元号、短命元号

	長い		短い	
1位	昭和	62年と13日	暦仁	2カ月と14日
2位	明治	43年9カ月と7日	天平感宝	3カ月と15日

※東大史料編纂所の山本博文教授による

大化から平成で使用漢字72文字

最多は「永」29回

「大化」から「平成」まで計247ある元号に使われた漢字はわずか72文字だ。天皇が自らの権威や独自色をアピールするとともに、長く良い時代になってほしいとの願いを込めるため、特定の漢字が繰り返し採用されている。最多は「永」の29回。「元」「天」各27回、「治」21回、「応」20回、「正」「長」「文」「和」各19回、「安」17回と続く。

元号はかねて中国古典を基につくられ、「天平感宝（てんぴょうかんぽう）」「神護景雲（じんごけいうん）」など奈良時代の五つの例外を除いて漢字2文字からなる。平仮名や片仮名が使われたことはない。

1回だけ使用された文字は「吉」「勝」「泰」「白」「福」など30字ある。昭和の「昭」も含まれる。昭和と決まった際には、字解を説明するのに苦労したともいわれる。平成は「平」が12回目、「成」は初めての登場だった。

元号に使われた漢字（計72文字）

※「大化」から「平成」までの間

順位	漢字	回数
1	永	29回
2	元、天	各27回
4	治	21回
5	応	20回
6	正、長、文、和	各19回
10	安	17回